

# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

平成31年3月4日（月）～平成31年3月10日（日）〔平成31年第10週〕の感染症発生状況

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.32人と前週（5.43人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.43人と前週（3.00人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

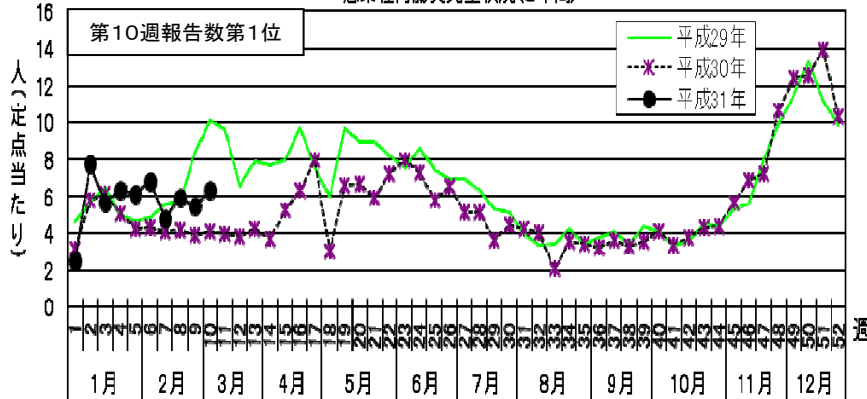
インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.23人と前週（4.25人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

水痘・带状疱疹ウイルス

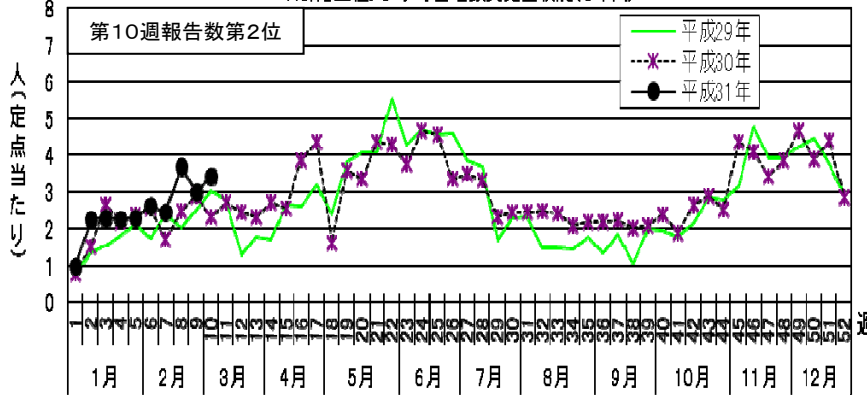
★ミスボくん★



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



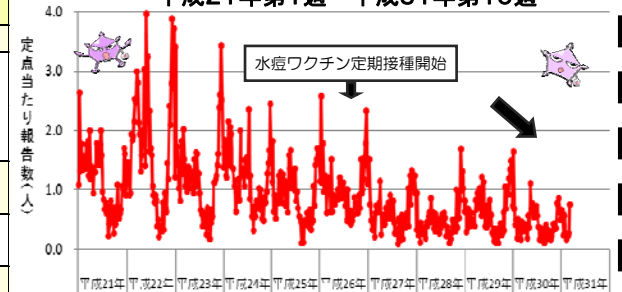
## 知っておきたい感染症～水痘（みずぼうそう）～

水痘は、水痘・带状疱疹ウイルスの初感染によって引き起こされる水疱を伴う発疹性の感染症です。小児では、平成26年10月に水痘ワクチンが定期接種化され、全国的に患者報告数は大きく減少しましたが、定期接種を受けていない年代においては現在も流行がみられます。また、水痘・带状疱疹ウイルスは感染後長期間にわたり神経の中に潜伏するといわれており、過労や免疫機能の低下等により、再び活性化して带状疱疹を発症します。

### 水痘、带状疱疹の主な特徴

	水痘	带状疱疹
病原体	水痘・带状疱疹ウイルス	
感染様式	空気感染、飛沫感染、接触感染等により感染した後、2週間程度（10～21日）で発症	初感染後、ウイルスが神経の中に長期間潜伏し、過労や免疫機能の低下等により、再び活性化して発症 ※接触感染等により免疫のない人に感染させることがあります。
好発年齢	9歳以下の学童期	50歳以上（発症率は、加齢に伴い増加傾向）
主な症状	発熱、発疹（水疱瘡）、かゆみ等	ピリピリとした皮膚の痛み、かゆみ、発疹等
経過	通常、発疹は経過とともに痂皮（かさぶた）化し、約1週間で治癒	通常、発疹は神経が通っている部分に沿って出現し、痂皮化して約3週間で治癒
合併症	膿痂疹等皮膚の二次性細菌感染、肺炎、髄膜炎・脳炎等	带状疱疹後神経痛* ※带状疱疹の皮膚の症状が治まった後も長期間にわたって続く痛み
ワクチン	水痘ワクチン	
	定期接種 対象者：生後12月（1歳）から生後36月（3歳）に至るまでの間	任意接種 対象者：50歳以上

川崎市における水痘発生状況(10年間)  
—平成21年第1週～平成31年第10週—



### 带状疱疹はワクチン（任意）で予防できます！

我が国では、高齢者の带状疱疹予防を目的として、平成28年3月から50歳以上の方を対象に水痘ワクチンを使用できるようになりました。

※生ワクチンであるため、白血病、抗がん剤使用中、免疫抑制療法中、AIDS等の免疫不全患者は接種できません。